EMコール訓練



生徒の命を守るために



万一学校で生徒の生命に関わるような事故が起きたら・・EMコール訓練はそうした事態が発生したとき、全教職員が連携して対応するためのものです。



第一発見者は、生徒の状況を把握するとともに、大声で救援を呼びます。
こうした事態ではとにかく人を集めることが大切になります。



全校放送を使用して「EMコール！EMコール！
〇〇にて事故発生！」と連絡を入れます。
ただちに全ての授業を中断し、動ける教職員は現場に集合します。



今回は階段から転落、頭部を受傷し意識レベルがやや低いという想定でした。
生徒に付いている教員は、生徒から目を離すことなく、状況を把握していきます。
その間に集まってきた教職員が役割分担をしていきます。





119番通報の訓練です。
通報時に聞き取られる内容を正確に伝えます。
平時であれば言える住所も、眼前に生命の危機が迫っている時はどうでしょうか。
養護教諭がポータブルなハンドブックを作ってくれていました。



生徒のそばでは時系列に沿って生徒の状況を記録しています。これらのことが救急車到着後の医療対応に役立ちます。



他の生徒に無用の緊張を与えないように、パーテーションを設置しています。複数の教職員が集まれば、このような配慮も円滑に実施できます。



状況の悪化に備えてAEDを準備します。本校には3台のAEDが設置されています。



受傷者の状況が悪化したという想定で心肺蘇生とAEDの操作が行われました。



心肺蘇生は救急車が到着して引き継げる状態になるまで続けます。そのため途中で交代する必要も出てきます。本校では全ての教員が普通救命救急講習以上の講習を修了しています。
事故は起こらないことが一番ですが、万一の際に備えてあることも大切になります。